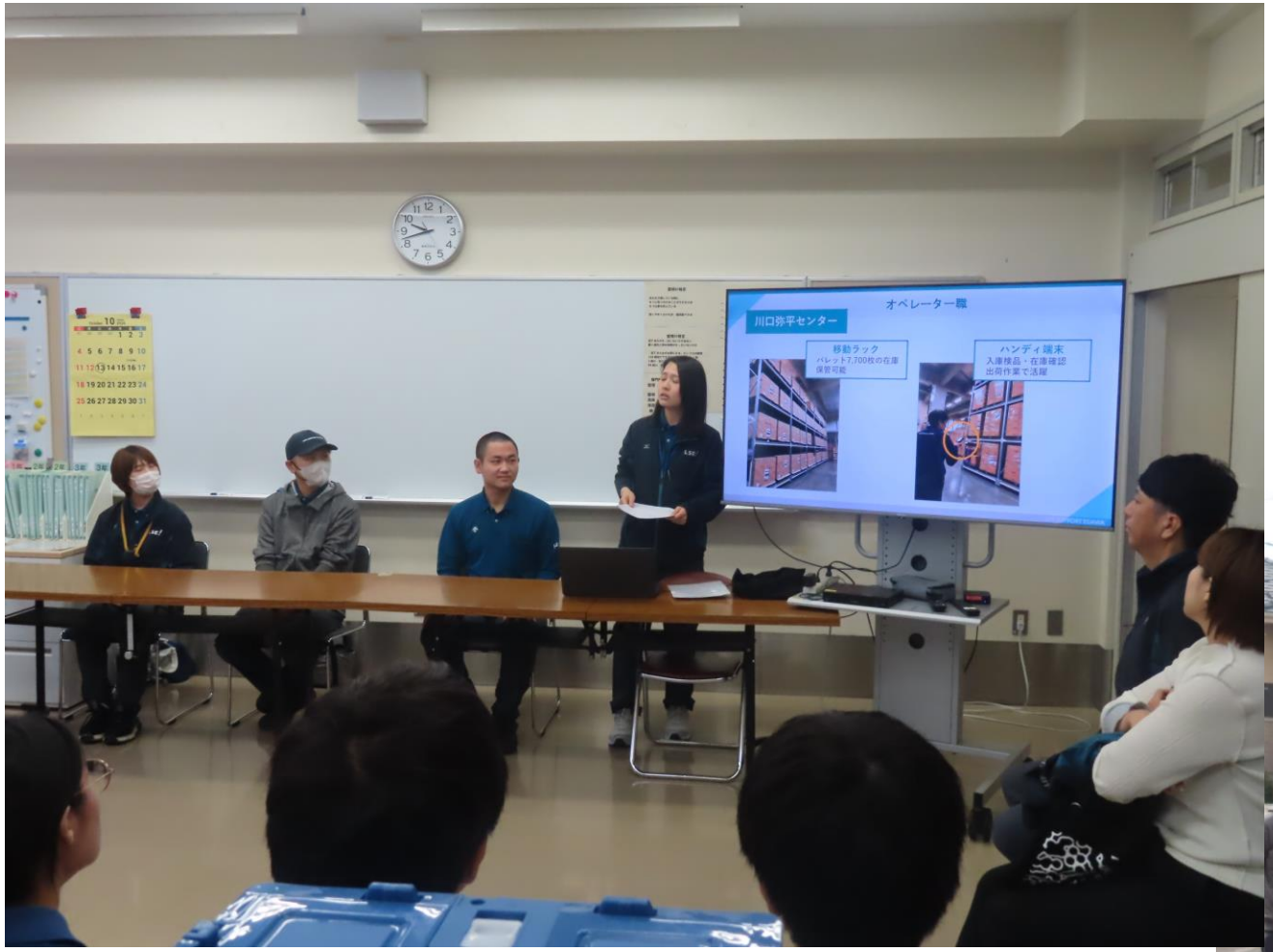


フォークリフト体験実習



職能開発科流通コースの2年生を対象に、フォークリフト体験実習が行われました。
ロジスティクス企業のライフサポートエガワ様に御来校いただき、実際の流通現場で大切になることをプロの目線で教えていただきました。
ライフサポートエガワ様には本校から卒業生が就労して、活躍しています。



この卒業生とてもまじめで、丁寧に物事に取り組む人でした。そんな彼をスタッフとして指導育成していただいている企業様には本当に感謝しています。そして、彼もまた我々にとっての誇りでもあります。



作業現場の安全に一番大切なのは「確認すること」だと教わりました。ドアも窓もないフォークリフトにも「死角」があり、作業に集中しているとかなりの近さまで人が近づいても見えにくくて気づかない角度があります。



安全への責任はフォークリフトのオペレーターだけにあるのではありません。近くを歩く人も、オペレーターに声をかけるなど、自分の存在を伝える責任があります。「安全」は職場の人たち全員で作るものだと教わりました。

次はスラローム走行。パレットで壁を作り、ペットボトルを何本か立てました。ペットボトルから壁までは、フォークリフト車体幅＋10cm。ペットボトルからペットボトルの間はフォークリフト車体長＋10cm。これは前後左右を常に確認しながら操縦するトレーニングです。





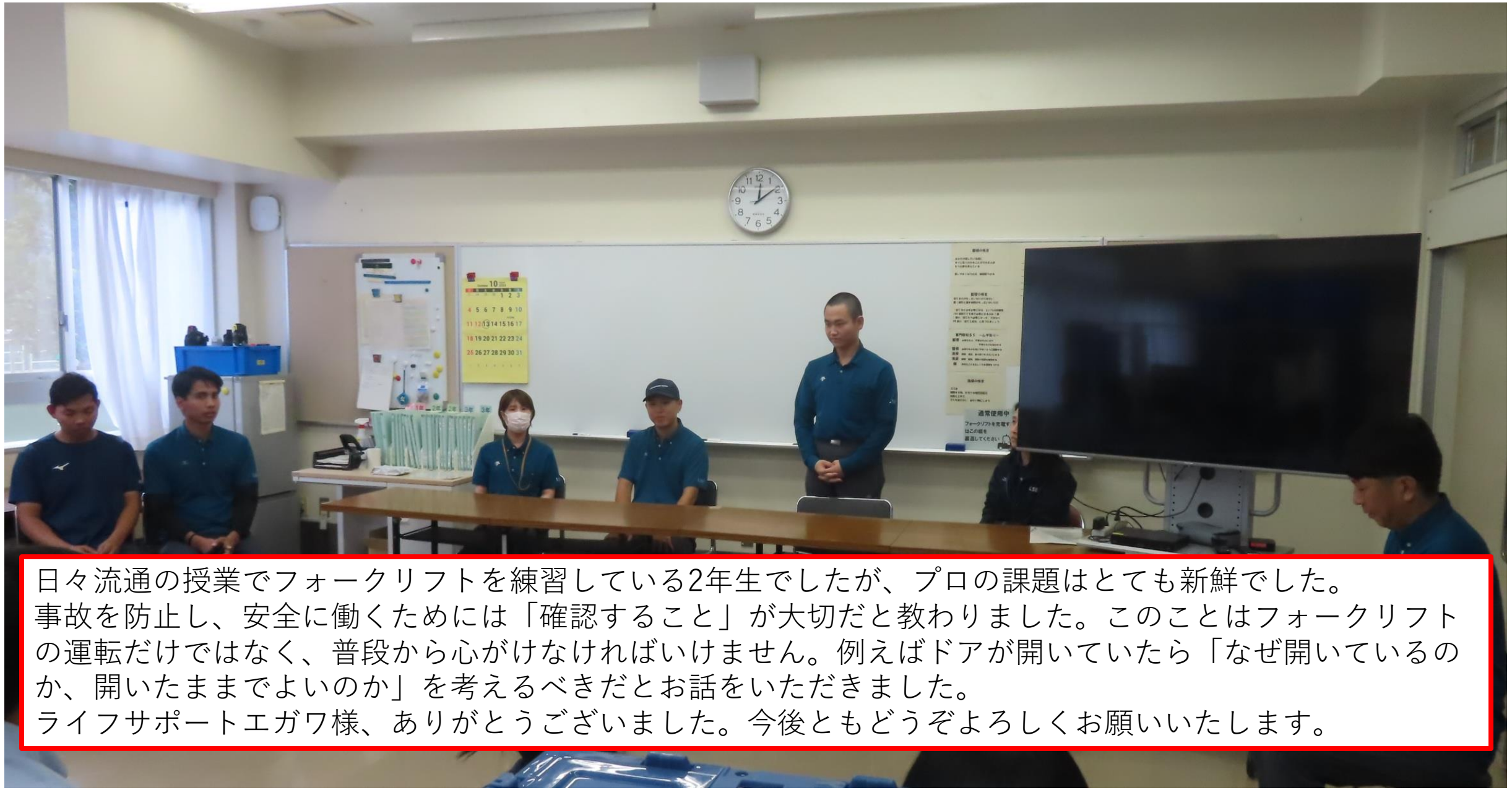
リアステア（後輪が方向舵）のフォークリフトならではの小回りですが、それゆえ常に周囲を確認していないと接触事故が起こります。
切り返しをするたびに状況が悪くなってしまう人もいて、、、「〇〇の1ミリ」が飛び出してました。



最後は縦に置いたパレットの上にパレットを重ねるトレーニング。商品によっては重ねて置くこともあるそうで、その時にきちんとセンターを出して置いてないと、バランスが崩れてしまいます。前後左右を確認して丁寧に置く必要があります。
プロは素早くかつ丁寧にやって見せてくれました。



生徒たちはめったにこんな高さにフォークを上げることがないので、ドキドキです。
普段できる操作が怪しくなることもありました。
でもみんな先輩のサポートを受けながら、頑張っていました。



日々流通の授業でフォークリフトを練習している2年生でしたが、プロの課題はとても新鮮でした。
事故を防止し、安全に働くためには「確認すること」が大切だと教わりました。このことはフォークリフトの運転だけではなく、普段から心がけなければいけません。例えばドアが開いていたら「なぜ開いているのか、開いたままでよいのか」を考えるべきだとお話をいただきました。
ライフサポートエガワ様、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。